

【今週号のテーマと予想レンジ】 ～ドル売り地合いを解消させる材料に欠ける一週間～

ドル円 … 85.50～89.50 (ドル円上値重い)

ユーロ … EUR/USD 1.2600～1.3100 EUR/JPY 110.50～114.00 (対ドル上値重い・対円横ばい圏)

ポンド … GBP/USD 1.4800～1.5500 GBP/JPY 130.00～135.00 (対ドル横ばい圏・対円弱含み)

豪ドル … AUD/USD 0.8600～0.8900 AUD/JPY 73.50～78.50 (対ドル横ばい圏・対円弱含み)

「少数 (a few) の参加者はデフレのリスクが散見されると発言した」、14日に公表された米連邦公開市場委員会 (FOMC) 6月開催分の議事録で「デフレ」という言葉が用いられ議論されたことが判明、経済の見通しを下方修正したこと以上に市場は衝撃を持って受け止めた。言葉自体は、昨今の米国経済環境を憂慮する要素のひとつとしてFRB場外で見聞きすることがなかったわけではないが、前月(5月)までは出口政策の時期を巡る議論など、「前向き」なトーンとなっていたFOMCで「デフレ」について語られていたことの意味は大きかった。このことは、欧州危機による影響は少なからずあるにせよ、それをまともに受けてしまう現在の米国経済の弱さを改めて認識させた。「恐怖指数」VIXインデックスは欧州危機顕在化時ほど上昇しておらず、パニックに陥っていないところがかえって根の深さを感じさせる。すでに一部では、FRBの次の一手は「出口」ではなく、再びの「金融緩和」であると唱える向きもあるようだ。バーナンキFRB議長は21日、22日に議会証言を予定しているが、議事録で明らかになったFOMCの警戒トーンを維持するのか、それとも「デフレ」への反応に対する火消しに回るのか、注目される。

日本の政治は再び「ねじれ国会」となるも為替相場の材料としては長続きせず、欧州金融機関のストレステストも話題としては23日の結果公表を前に中だるみ感が否めない一週間だった。そのうえ「リスク回避」の流れが小緩んできていただけに、FOMC議事録は週後半にかけての株安、債券高、そしてドル安を呼んだ。米経済指標は予想通り不安を助長する結果となるものが目立ち、中国の経済指標も一部では「悪かった」と評する声も聞かれるような結果で、週末にかけてダウは1万ドル絡みまで下落、日経平均は9400円を割り込んだ。米国債は買われ、10年債の利回りは再び3%割れとなった。また、為替相場ではドル売りが進み、ドル円では一時86円前半と年初来安値を更新、ユーロドルでも5月以来の高値となる1.30台を示現した。

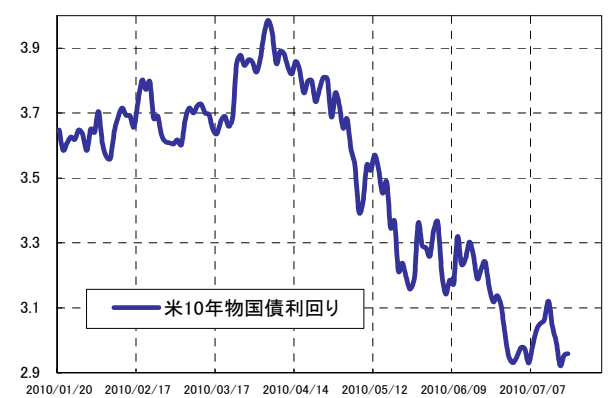
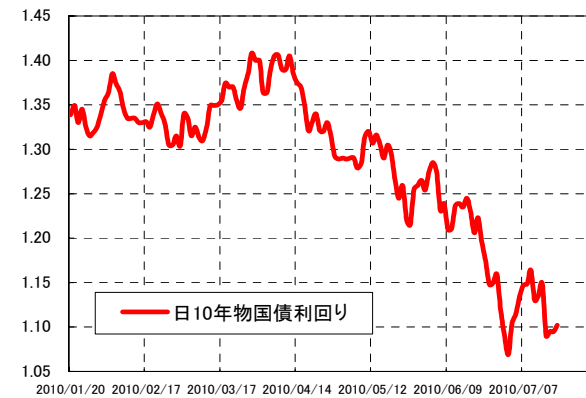
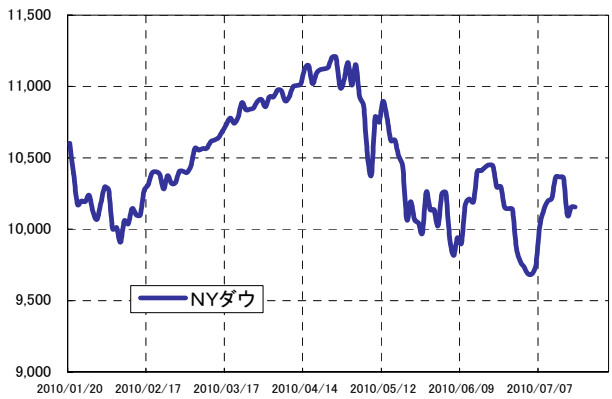
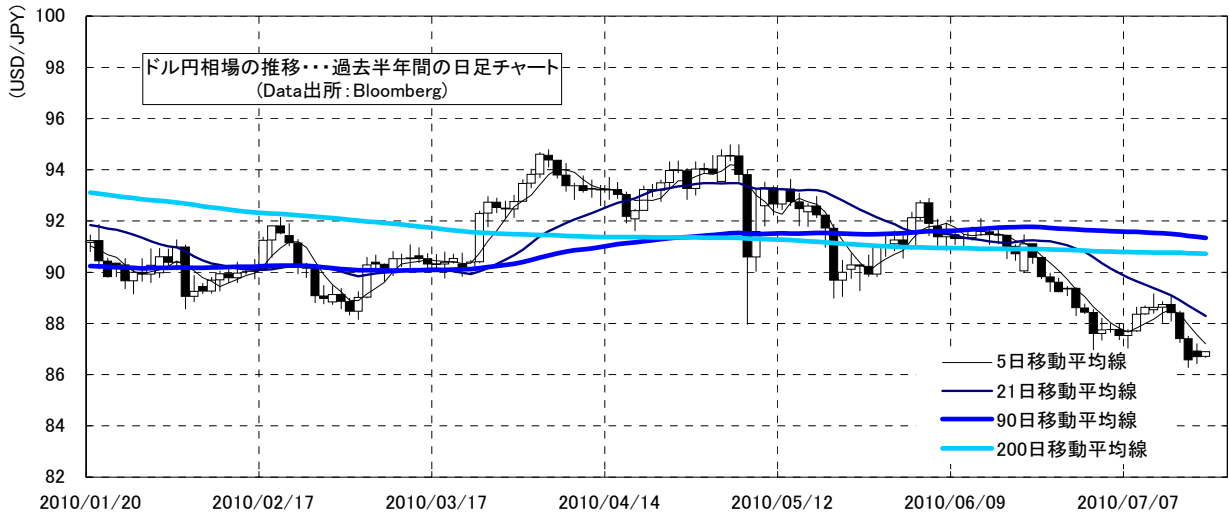
心理的に弱気のときは、弱いものばかりが目につき、ますます弱気になる。経済指標や企業決算が発表される前、情報ベンダーは市場関係者にヒアリングを実施し、その平均値などを所謂「市場予想」として公開している。このところの米国経済指標発表スケジュールを見ると、多くは「弱気」が前提の予想となっており、教科書的に言えば、相場はすでにこの「弱気」予想を織り込んでいると考えられる。ここまで予想通りに弱い結果が続くと、予想対比多少強い指標があっても、その他弱い指標にほぼ埋もれてしまっている。また、足許第2四半期の米企業決算が発表ラッシュを迎えているが、欧州危機がまだ対岸の火事であった時期を含む「過去」の数字が多少良くても、せいぜい株価を下支えする程度で、ドル円浮上の支援材料としては物足りない。

今週の米国経済指標は、住宅関連と景気先行指数が注目される。昨日発表された7月の住宅市場指数も昨年4月以来最低の水準となった。発表元の全米ホームビルダー協会では、4月末期限の税制優遇の反動が想定よりも長期化すると予想している。また、本日発表の住宅着工件数、22日の中古住宅販売件数、景気先行指数なども予想は「弱気」なものとなっていて、こちらは梅雨明けの兆しが見えない。企業決算発表も今週がピークとなるが、マイルド改善のきっかけとまでは至らない可能性が高からう。

23日にはいよいよ欧州金融機関に対するストレステストの結果が公表される予定だ。先週末までにさまざま飛び交っている情報、憶測を総括すると、対象91行のうち、ドイツやスペインなどの一部金融機関は資本不足と判定されるが、いずれも当該国が支援のために準備している既存の枠組みで対処できる規模で、欧州金融システムに影響を与えるほどではない、というところだろう。そもそも、このテストは本来、結果が良かったという事態はあまり想定されないものであり、あるとすればネガティブサプライズ。為替相場は、ストレステストに対する楽観的な見方が織り込まれていると見られ、結果公表後に一段と買われる展開とはなりづらい。足許1.3絡みまで回復したユーロドルは今週末にかけて、ギリシャ問題に端を発する急落後の戻りのピークを迎えよう。

(金融市場部 アナリスト 井野 鉄兵)

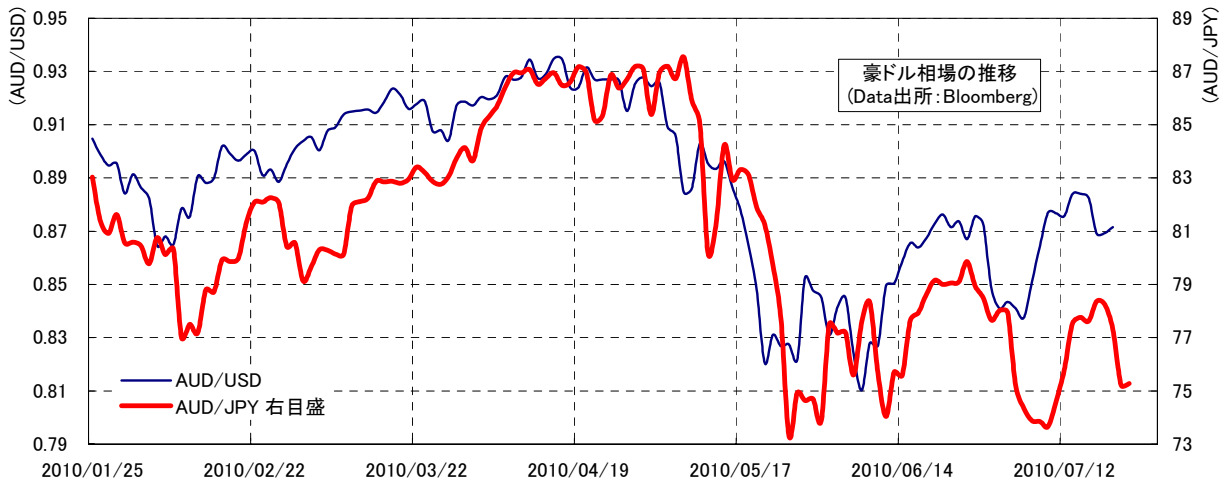
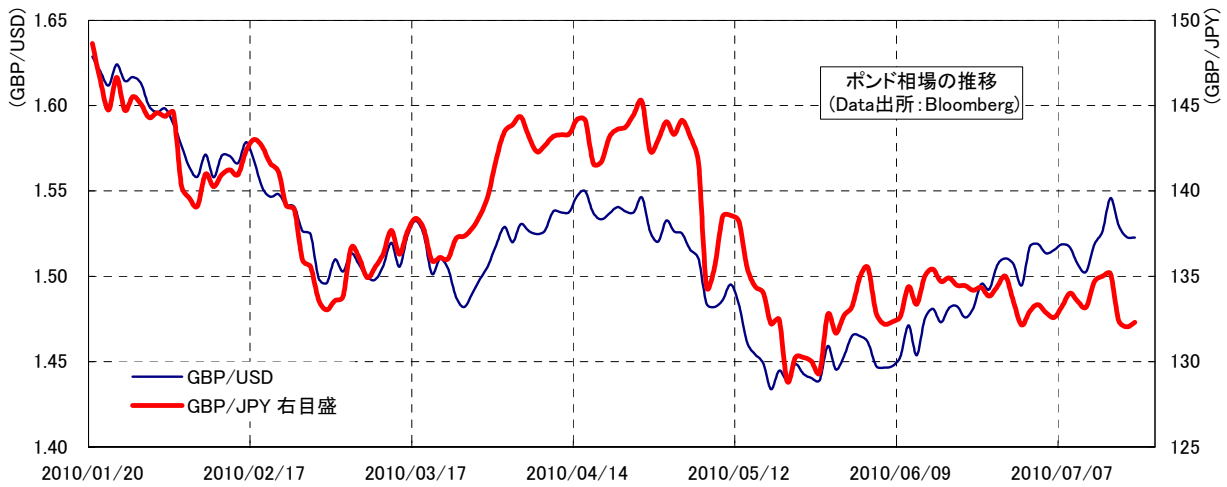
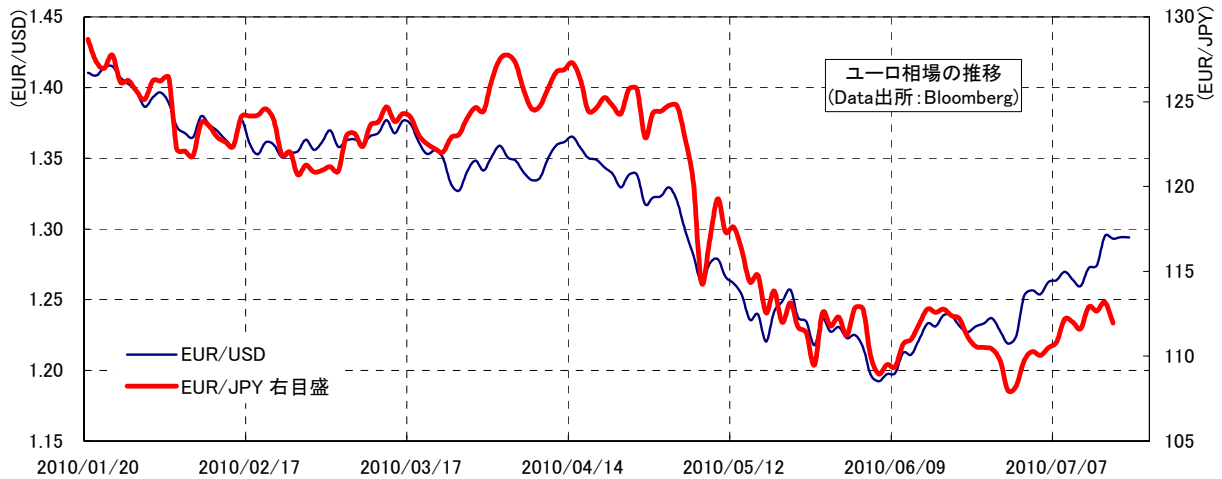
BTMU FX Weekly



【今週の予定】

月	火	水	木	金
2010/07/19	20	21	22	23
ユーロ圏/経常収支(5月)	米/住宅着工許可件数(6月) 加/BOC金融政策委員会	英/MPC議事録(7/7・8分) 日/日銀金融政策決定会合議事要旨 (6/14・15分) 月例経済報告	米/景気先行指数(6月) 中古住宅販売(6月) FHFA住宅価格指数(5月) ユーロ圏/製造業PMI速報(7月) サービス業PMI速報(7月) 英/小売売上(6月)	独/ifo景況指数(7月) 英/GDP速報(2Q)
米・FRBデューク理事講演 東京市場休場	米・FRBタロウ理事議会証言 (上院銀行委員会)	米・FRBバーナンキ議長定例議会証言 (上院銀行委員会)	米・FRBバーナンキ議長定例議会証言 (下院金融サービス委員会)	欧州銀行監督委員会による金融機関・ ストレステスト結果発表

BTMU FX Weekly



Global Currency Research

東京

亀井 純野
sumino_kamei@mufg.jp
井野 鉄兵
teppe_iino@mufg.jp
秋山 文子
ayako_akiyama@mufg.jp

山下 正太郎
shiyoutaro_yamashita@mufg.jp
田端 克美
katsumi_tabata@ptr.bk.mufg.jp
内田 稔(市場営業部)
minori_uchida@mufg.jp

ロンドン

Mr. Derek Halpenny
derek.halpenny@uk.mufg.jp
武田紀久子
kikuko.takeda@uk.mufg.jp

Mr. Lee Hardman
lee.hardman@uk.mufg.jp
Ms. Marcia Doyle
marcia.doyle@uk.mufg.jp

シンガポール

Ms. Leong Sook Mei
leongsm@sg.mufg.jp
谷 和衛
tani@sg.mufg.jp
Ms. Geraldine Mok
geraldine_mok@sg.mufg.jp

〒100-6417 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビル 三菱東京UFJ銀行 金融市場部

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。なお、当資料の無断複製、複写、転送はご遠慮ください。当方の都合で、本レポートの全部または一部を予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。